

春のイベント特集

県立美術館

開館5周年記念展

青木淳×杉戸洋 はっぱとはらっぱ

青森県立美術館を設計した建築家・青木淳、日本の現代アートシーンを代表する画家・杉戸洋。二人のアーティストが、県立美術館の空間の魅力をより強く引き出すことを共通の目標に、建築と美術の垣根をこえて理想的な展覧会を作り上げる、これまでにない趣向の建築展です。開館から5年を迎える県立美術館に新たな風景がうみ出されます。

- 会 期/4月23日(土)～6月12日(日)
- 開館時間/9:30～17:00(入館は16:30まで)
※6月以降9:00～18:00(入館は17:30まで)
- 観 覧 料/一般1,100円(900円)、高大生600円(500円)、
小中生300円(200円)、
常設展とのセット券/一般1,400円(1,200円)、
高大生800円(700円)、
小中生350円(250円)
- ※()内は20名以上の団体料金
※心身に障がいのある方と付添者1名は無料

演劇「津軽」野外公演

太宰治原作の演劇「津軽」を県立美術館野外特設ステージで再演します。演劇「津軽」は、太宰治の小説「津軽」を原作に、平成21年度には金木芦野公園駅、22年度には東京都内で上演し、大好評を得ました。俳優村田雄浩さんと女優川上麻衣子さんを主演に、豊富な芸術・文化力を持つ青森県民と豊田一輪車クラブ、そして青森県の食文化を結集し、上演します。

- 公 演 日/4月30日(土)～5月5日(祝木)
※5月2日(月)は休演日
- 時 間/18:30～(上演時間2時間30分)
※途中休憩の際、太宰が「好んで食べた食材の軽食を配布します。」
- 潤色・脚本・演出/長谷川孝治(県立美術館舞台芸術総監督)
- 出 演/村田雄浩・川上麻衣子ほか
- チケッ 前売り 一般3,000円、学生1,500円
(当日券は全て500円増し)
- 前売りチケット・問い合わせ先 演劇「津軽」事務局
電話017-783-5243(平日9:00～17:00)

<http://aomori-museum.jp/>
県立美術館 ☎017-783-3000

4 23
(土)ほか

県立図書館

～みんなおいで!おはなしは心のおやつだ おいしいよ～

おはなし会

読書ボランティアや県立図書館職員が絵本の読み聞かせをします。参加した方には、おはなし会カードとシールを差し上げます。

- 日 時/4月9日(土)14:00～14:30
- 対 象/幼児、小学生(参加無料、事前申込不要)
- 場 所/県立図書館児童閲覧室おはなしコーナー

科学おはなし会

科学のおもしろ実験や科学に関する本のお話。参加した方には、おはなし会カードとシールを差し上げます。

- 日 時/4月23日(土)14:00～15:00
- 対 象/小学生、科学に興味のある方など(参加無料、事前申込不要)
- 場 所/県立図書館4階集会室

第53回こどもの読書週間行事開催

4月23日は世界本の日・子ども読書の日、4月23日～5月12日は「こどもの読書週間」です。「こどもの読書週間」は、大人が本をこどもに手わたす週間です。県立図書館では、「こどもの読書週間」に図書展示などを行います。

県立図書館 ☎017-739-4211



4 9
(土)ほか

県営スケート場

インラインスケートリンクが、
4月29日にいよいよ
オープンします。

オープンイベント

楽しいゲームがたくさん!
■期日/4月29日(祝金)

インラインスケート営業案内

- 営業期間/4月29日(祝金)～9月4日(日)
- 営業時間/平日13:00～20:00、
土日祝10:00～20:00
- 休 場 日/毎週月・火曜日
(祝日の場合は火曜日のみ)
(全館貸切の場合は臨時休場日となります)
- 利用料金/小学生以下 110円、中学生 220円、
高校生 330円、一般 590円、
貸靴料 340円

<http://www.jomon.ne.jp/~skate01/>
県営スケート場 ☎017-739-9500



県立梵珠少年 自然の家

「春・いっぱい」

- 内 容/ネイチャーゲーム、自然観察など
- 期 日/5月15日(日)
- 募集期間/4月15日(金)～5月10日(火)
※ただし、定員になり次第締め切ります。
- 対 象/小中学生とその保護者40名
- 経 費/1人400円程度

「自然体験活動指導者養成講座」

- 内 容/実習「レクリエーションゲーム」、「救急法短期講習」など
- 期 日/5月21日(土)～22日(日)
- 募集期間/4月21日(木)～5月17日(火)
※ただし、定員になり次第締め切ります。
- 対 象/青少年教育・自然体験活動に興味のある方30名
- 経 費/1人1,500円程度

申込方法は、いずれも電話、FAX又は電子メールで
電話0173-29-3303 FAX0173-29-3306
E-mail e-bonju@pref.aomori.lg.jp

県立梵珠少年自然の家 ☎0173-29-3303

5 15
(日)ほか

「A-FACTORY」は、決して大規模な施設ではありません。小さな施設ですが、素材にこだわった一級品のシートルを作り首都圏でも知ってもらいたい。

新しいことにトライする 場として使って欲しい

「A-FACTORY」は、決して大規模な施設ではありません。小さな施設ですが、素材にこだわった一級品のシートルを作り首都圏でも知ってもらいたい。

工場のイメージは映画 「チャリリーとチョコレート工場」

シードル工場を作りたいと考えた時、頭に浮かんだのは、映画「チャリリーとチョコレート工場」のイメージでした。生産者は自信を持ってりんごを提供でき、従業員もかっこよく働ける場所であり、りんごが生まれ変わって首都圏に販売されていく。そんな、夢のある「見せる工房」を作りたいです。外観がでか始めた頃、近くを散歩中の人たちが「昔からあるようにも見えるし、新しくも見える。」と言ってもらえたことは今でも心に残っています。インテリアデザイン「片山正通さんのデザインで、周囲の景観と溶け込んだスタイリッシュな工房ができました。」

ノルマンディ地方の シードル街道にヒントを得て

新幹線の開業に合わせて、青森駅周辺に、地域のモノを前面に出して、地元の人たちが集まってもらえる何かできないかな...と考えた時に浮かんだのが、「りんごの加工」というのも、浪岡から弘前にかけて、りんご畑が果てしなく続く景色がフランス・ノルマンディ地方のシードル街道にもすごく似ているんです。シードル街道では、りんご農家が自分たちでりんごを絞ってシードルやカルヴァドス(アップルブランデー)を作っていました。青森県は豊富な種類のりんごを大切に育てているから、「加工を切り口にした取り組みをすれば、もっと面白いことができる」と思いました。

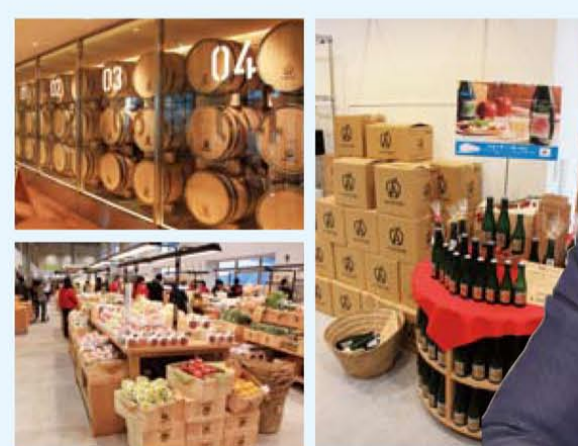


青森ウォーターフロント「A-FACTORY」の仕掛け人。JR東日本・地域再発見プロジェクトの鎌田由美子さんにシードル工房にかける想いを語っていただきました!

「A-FACTORY」は、決して大規模な施設ではありません。小さな施設ですが、素材にこだわった一級品のシートルを作り首都圏でも知ってもらいたい。

青森県のにぎわいと宝物を いっぱい発信して

シードルは、りんご農家がそれぞれに個性あるものを作るようになってほしいです。いろいろな品種、いろいろな掛け合わせで様々なシードルが生まれれば、味もバリエーションも世界に誇るシードル街道になっていくはず。ぜひ、青森県の「りんご」を使って、素敵な宝物を発信してください。「A-FACTORY」を起點に、青森のにぎわいと宝物を発信しましょう!



鎌田 由美子さん JR東日本 事業創造本部 地域活性化部門部長
2001年本社事業創造本部立川駅・大宮駅開発プロジェクトにおいてエキナビジネスを手がける。2005年(株)JR東日本ステーションリテイリング代表取締役社長に就任。2008年11月、本社において地域活性化等を手がけ、2010年6月より現職。

読者プレゼント 黒石温泉郷6旅館の入浴券が3枚付いた 夢ぐり湯札

応募方法

ハガキに、住所、氏名、年齢、電話番号、今回の「県民だよりあおもり」の感想、興味を持った記事を明記の上、下記宛先にお送りください。なお、応募者が多い場合には抽選となります。当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます。ご了承ください。
030-8570 青森市長島1-1-1 青森県広報聴課「読者プレゼント」係

5名様

